

学校教育目標	温かい学校 感動あふれる学校
目指す学校像	・時を守る ・場を浄める ・礼を尽くす
重点目標	1 生徒が主体的に活躍し、達成感が味わえる教育活動の推進 2 信頼関係を基盤とした積極的な生徒理解、生徒指導、教育相談の推進並びに温かな心の育成 3 学校運営協議会を核とした地域・保護者・学校による協働学習の充実 4 生徒一人ひとりが安心して生活できる教育環境の整備の推進 5 強い使命感と教育への情熱をもった常に学び続ける教職員の育成並びに働き方改革の積極的推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

		学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標				年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組	1	<現状> ○全国学力・学習状況調査（R6・3 年）では、国語と数学ともに平均は全国・県・市を下回った。また、市学習状況調査（R6・1,2 年）でも、多くの教科で市の平均を下回った。 <課題> ○調査結果から、知識・技能に関する定着度や理解度が十分ではないこと、思考・判断・表現に関しても無回答率が高いことが課題である。 ○市学習状況調査（R6）では、「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答は 6 割を超えているものの、家庭学習に対する生徒の意識に差があることが課題である。	確かな学力の育成	①「上中スタンダード」に基づいた授業展開を行い、生徒に授業時の目標と振り返りの時間を確実に設定する。 ②カリキュラムマップを活用した育てたい資質・能力を育成するための授業改善を行う。 ③週 1 回の ICT 等を活用した難易度別ドリルの実施と効果測定を行うことで、基礎・基本の定着を図る。	①全ての授業における柱建てを統一した「上中スタンダード」を構築できたか。 ②学校評価「授業は楽しくて分かりやすい」肯定的回答生徒 95%以上・保護者 80%以上となったか。（R6_生徒 93%、保護者 66%） ③学校評価「予習や復習等の家庭学習が身につけている」肯定的回答生徒 80%以上・保護者 60%以上（R6_生徒 70%、保護者 37%）				
			「個別最適な学び」や「協働的な学び」に向けた授業改善	①「学びのポイント」を踏まえ、ICTを効果的に活用した生徒同士が主体的に自分の意見を出し合い、お互いが高め合えるような協働的な学びができる授業実践を行う。	①学びの指標「主体的な学び」3.5 ポイント以上「ICT の効果的な活用」3.3 ポイント以上となったか。（R6：主体的な学び 3.29 ポイント、ICT の効果的な活用 2.93 ポイント）				
心の子どもの発達やサポートに関する取組	2	<現状> ○生徒アンケート（R6）「学校生活は楽しい」に対する生徒の肯定黄な回答は 95%であった。 ○生徒アンケート（R6）「先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって相談に応じている」に対する肯定的な回答は 97%であった。 ○市学習状況調査（R6）において、「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は市平均を下回っている。 <課題> ○自己肯定感や自己有用感を高めるために、達成感を味合わせられる生徒主体の取組をより多くの場面で継続的に行っていく必要がある。 ○生徒理解に努め、一人ひとりの状況を踏まえたより適切な支援体制を構築する必要がある。	自己肯定感や自己有用感を高める教育活動の実践	・学級活動や学校行事等を通じ、生徒による話し合い活動の活性化、生徒の意見を積極的に取り入れ、達成感や充実感を味合わせるようにする。併せて、エージェンシーの育成につなげる。	・学校評価（教職員）「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」肯定的回答 95%以上となったか。（R6 学活 82%、行事 90%、生徒会 100%） ・学校評価（保護者）「個性や能力を高めるような魅力的な学校行事を実施している」肯定的回答 95%以上となったか。（R6_93%）				
			生徒一人ひとりを大切にする支援体制の構築	①毎日のやり取り帳、心と生活のアンケートやスクールカウンセラー等を活用し、積極的な生徒指導・教育相談を心掛け、生徒一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな指導を行う。 ②関係機関等との連携、Sola の一むの活用を通して、生徒や保護者の要望に適切に対応した支援を行う。	①学校評価（生徒）「学校生活は楽しいですか」肯定的回答 98%以上となったか。（R6_95%） ①②学校評価（教職員）「生徒指導」「教育相談」肯定的回答 95%以上となったか。（R6 生徒指導 77%、教育相談 92%）				
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	<現状> ○市学習状況調査（R6）の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「ボランティア活動に参加したことがありますか」に対する肯定的な回答は、どちらも市平均を 5%以上下回っている。一方、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定的な回答は市平均は下回っているものの 75%であり、地域に貢献したいと考えている生徒は比較的多い。 ○地域の公民館や避難所開設訓練にボランティアとして参加した人数（R6）は、前年度より 20 人程度増加している。 <課題> ○地域において、生徒がボランティアとして活動する機会を増やしていく必要がある。	地域・保護者・学校による協働学習の充実	①学校運営協議会において、生徒が地域で活躍する方策を検討・協議する。 ②地域と連携した「地域の防災マター」講座の計画立案、公民館や自治会等のボランティア活動等への生徒の参加を促す啓発活動を実施する。 ③第 2 回学校運営協議会において、代表生徒による「意見表明」の場を設ける。	①学校評価（地域）「PTA や地域団体と連携して子どもの教育に当たっている」肯定的回答 60%以上となったか。（R6_55%） ②公民館ボランティア及び避難場所開設訓練への生徒参加数のべ 90 人以上となったか。（R6_のべ 71 人） ③「生徒や教職員は積極的に地域行事へ参加している」肯定的回答 70%以上となったか。（R6_60%）				
			地域への積極的な情報発信	①HP（ブログ）による情報発信を週 2～3 回、生徒のボランティア活動の様子を学校だより等を通じての発信も行う。 ②公民館文化祭への生徒作品の展示や発表、特別支援学級による地域向け頒布会を実施する。	①学校評価（保護者・地域）「学校だより等で学校の様子を伝え、開かれた学校づくりをすすめている」肯定的な回答 95%以上となったか。（R6_保護者 92%、地域 75%） ②生徒が発表する場を設けることができたか。				
教育環境の整備に関する取組	4	<現状> ○施設・設備に係る安全点検は定期的に行われているが、老朽化している箇所も増えている。 ○教室棟東トイレの改修工事を予定している。 <課題> ○修繕に十分な対応ができていない箇所がある。 ○定期的な安全点検に加え、事故を未然に防ぐ視点をもった危機管理意識を高めていく必要がある。	生徒一人ひとりが安心して生活できる教育環境整備	①毎月の安全点検の確実な実施を行うとともに、迅速な対応を行う。必要に応じて、関係課等と連携して対応する。 ②事故の未然防止の視点に立った修繕等を実施する。 ③トイレ改修工事の安全な実施に向け、施工業者との打ち合わせを随時行う。 ④清掃活動や掲示物を通じた学習環境の整備を積極的に推進する。	①②学校評価（教職員）「施設・設備の管理」肯定的な回答 90%以上となったか。（R6_83%） ③トイレ改修工事による影響を最小限に抑える学習環境を構築できたか。 ④学校評価（教職員）「環境教育・緑化教育」「掲示」肯定的回答 95%以上となったか。（R6_環境教育・緑化教育 92%、掲示 90%）				
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<現状> ○本年度から、「上中スタンダード」に基づいた授業展開を全教科で進めている。また、難易度別ドリル学習を通して、基礎・基本の定着と家庭学習の習慣化を狙いとした取組も行っている。 ○授業時における ICT の活用には差が見られる。 ○時間外勤務の削減が十分図られていない。 <課題> ○本年度からの取組を全教員が共通理解のもと進めていく必要がある。 ○生徒自らが ICT を活用しながら、主体的に学習に取り組む授業づくりを継続して推進していく必要がある。 ○業務の効率化並びに負担軽減を図るための具体的な方策を検討する必要がある。	指導力向上を目指した学び続ける教職員	①「学びのポイントの意識度」を A とするための方策を確認し、受講奨励を通して、各種研修会への参加について指導・助言を行う。 ②「教職員による相互授業観察シート」を活用した教員相互並びに管理職による授業参観を実施する。 ③校外の研究発表や授業研究会に全教員が参加する。	①学びの指標「学びのポイントの意識度」（教職員）A とする割合 30%以上となったか。（R5_3.7%） ②教員相互並びに管理職による授業参観を計画的に実施できたか。 ③全教員が、校外の研究発表や授業研究会に参加できたか。				
			業務の効率化並びに負担軽減に向けた働き方改革の推進	①時間外勤務時間の削減に向けた方策について確認を行うとともに、教職員から出された要望を検討することで、校内の働き方改革を進める。 ②デジタル採点ツールを全教員が使用することで、テストの採点に係る時間の削減を行う。	①「教員等の勤務に関する意識調査」負担感・多忙感 70%以下（R6_75%）、学校業務改善の取組の肯定的な回答 60%以上（R6_50%）となったか。 ①②全ての教職員の時間外勤務時間の前年度比 10%以上の削減				